

2020年度 青森県ユース審判サッカー3級昇級講習会

青森県サッカー協会審判委員会

1. 期 日 令和2年1月25日(土)～1月26日(日)
2. 会 場 屋内トレーニングセンター五戸ドーム, ひばり野スポーツ交流センター
3. 宿 舎 ひばり野スポーツ交流センター
4. 参加者 3級昇級希望ユース審判員19名 + RAC審判員1名+ 男子若手2級審判員1名
審判インストラクター8名 + S I 3新規4名・S I 3更新6名
 - ◆ 石田 明 (県審判委員会インストラクター副部長)
 - ◆ 石鉢 学 (県審判委員会指導育成部ユース部長)
 - ◆ 藤ヶ森 幸夫 (県審判委員会強化部長)
 - ◆ 山崎 克彦 (県審判委員会競技部長)
 - ◆ 植村 金造 (県規律・裁定委員会委員長)
 - ◆ 古舘 学 (審判インストラクター)
 - ◆ 志田 志津香 (審判インストラクター)
 - ◆ 袴田 健 (審判インストラクター)
5. タイムスケジュール

時間	1月25日	1月26日
7		朝食
8		【実技】審判団の打ち合わせ(石田 ins)
9	開講式(大会要項・割当確認) 【座学】判定の考え方(髙名 ins)	【実技】インドア大会での審判活動
10	【実技】インドア大会での審判活動 ● 3人一組の審判団を編成し、R,A1,A2を務めた。 ● 試合ごとにポストマッチミーティング(反省会)を行い、次の割当で改善できているかを図った	
16		試合終了 閉講式(講評・今後の動き)
17	試合終了 【座学】ピッチインスペクション(石鉢 ins)	
18	競技規則テスト 【座学】サッカーについて(山崎 ins)	
19	夕食	
20	入浴 【座学】審判報告書の書き方(石鉢 ins)	
21	【座学】ユース年代への指導と展望(石鉢 ins) 参加者全員による反省会(藤ヶ森 ins)	

6. 講習会の様子
 - 第46回五戸高校後援会旗争奪中学生新人インドアサッカー大会にて、6人制3人審判を行った。
 - S I 3新規・更新講習会も同時に開催し、ユース審判員のアセッサーやプレゼンを行う。その評価をS I 2が行った。
 - 主審や副審の動きを習得するために、INSの影として動くシャドウを必要に応じて取り入れた。
 - RAC審判員を招へいし、1年間の経験を通じてどれだけ成長したかを確認するだけでなく、次の課題を発見させる場とした。





7. 参加者レポート

● 高鹿 祥汰 (中学3年生・男子)

私が昇級試験を受けようと思ったのは、クラブチームのコーチに勧められたということもありますが、遠征などで審判をした時、会場の方たちに「若い子はこれからの活躍に期待できる」といった言葉をもらい、3級を取得してこれからも頑張りたいと思ったからです。

実際に受けて感じたことは、審判は競技者が安心して楽しくプレーできるように、何時間も前から準備をしていることを知りました。また、副審はオフサイド、スローイン、ゴールキック、コーナーキックの監視だけだと思っていましたが、主審の見づらい場所をサポートしなければならないことも分かりました。今までは審判の大変さを何も考えずプレーしていたので、今回の試験で学んだことを忘れずに、感謝の気持ちを持ちながらプレーしていきたいです。

● 関川 伽音 (中学3年生・女子)

私が昇級試験を受けようと思った理由は、2つあります。1つは、東北大会の時の主審が女性の方で、それを見て凄く格好いいと思い、女性審判員に憧れました。もう1つは、2025年に開かれる青森国体に何らかの形で関わりたいと思い、審判員として県のサッカーに貢献したいと考えたからです。

試験を受けてみて、「審判はとても難しく、奥が深い」と感じました。実技試験で主審を務めた時、プレーヤーと審判で1つの試合を創っていくことに感動しました。まだまだミスが多いのもっと修行をし、高校を卒業するまでに2級を取るのが目標です!! 2日間ありがとうございました。

● 高屋敷 知成 (高校1年生・男子)

私は将来的に1級審判員としてJリーグや国際試合の主審をしたいと考えているので、今回の昇級試験を受けました。試験を実際に受けてみて、自分が知らなかったことや曖昧だった知識をより深く

理解することができ、今後の審判活動に自信を持てるようになれました。特に実技試験では直すところも多々ありましたが、いつも通りリラックスして取り組み、自信を持ってフラッグを上げたり、ファウルを取ることができました。この2日間で大きく進歩できたと思います。とても有意義な時間を多くの方のサポートと共に、自分や仲間も成長できたのではないかと思います。今回の3級昇級講習会に携わった方々に感謝致します。ありがとうございました。

● 木村 羽美（高校1年生・女子）

部活動の先輩が審判をしている姿を見て、私も先輩のようになりたいと思って3級昇級試験を受けることにしました。また、選手としてだけでなく審判として試合に出ることで、サッカーに対してたくさんの面で成長出来ると思ったからです。しかし、3級昇級試験を受けることに不安もありました。審判の経験があまりなく、足を引っ張ってしまうのではないかと思いました。でも、先輩方が優しく声をかけてくれたので、3級に挑戦してみようと思いました。

実際に試験を受けてみて、たくさんのことを学ぶことが出来ました。1つ目は審判の基礎です。選手が信頼出来る審判になるにはどうしたらいいかなどを教えてもらいました。2つ目は、試合が審判のおかげで成り立っていると分かりました。これからは、審判をしてくださっている方に感謝して試合をしようと思いました。ここで学んだことを生かし、これからの審判活動を頑張っていきたいです。

● 井上 大河（高校2年生・男子）

昇級試験は顧問の先生から勧められたのがきっかけで、資格を増やすのによい機会だと思って受験しました。初日は緊張して動きがとても硬くなり、不安な気持ちで審判をしていました。しかし、2日目は審判員同士でコミュニケーションをとりながら行うことができました。インストラクターの方々も親切に細かいところまで指導してくれ、とてもうれしかったです。この試験を通じて、審判のスキルがかなり高くなったと思います。仲間もたくさんできて、とても充実した2日間でした。

◆ 一戸 幸治（審判インストラクター）

青森県S13新規講習会に参加して、多くのことを経験・体験することが出来ました。特に感じたことは、「伝えたいことを的確に伝える難しさ」です。今回はユース審判員が対象だったので、「具体的な言葉で分かりやすくする」「試合で起きた現象を振り返り、考えさせる」ことが大切であり、審判員が「次も頑張るぞ！」と思えるような声かけが必要であると感じました。私は中学校教員なので、インストラクターは教員と似ている部分が非常に多いと感じました。授業では振り返りがあるように、審判員も振り返りをする事で自分の良かった点や改善点などを確認でき、次回に向けて意欲的に取り組めるようになると感じました。

今回の講習会では多くのインストラクターからアドバイスなどをいただき、ものすごく勉強になりました。いつもは審判をやる立場でしか考えていませんでしたが、周りから見ることで、自分の振り返りにもなりました。ぜひ来年も参加し、自分のレベルアップにつなげていきたいです。このような経験をすることができ、本当にありがとうございました。これからは地区のユース審判育成に力を入れるとともに、地区の審判のレベルアップを図っていきたいです。

◆ 藤ヶ森 幸夫（審判インストラクター）

昨年に引き続き参加させて頂きましたが、モチベーションの高い受講生が増えていることに驚きと喜びを感じております。その一因が、ワールドカップや海外サッカー、Jリーグ等の質の高いゲームをテレビやネットを通じて容易に見ることが出来るからではないかと感じました。受講生の中には積極的に質問してくる方もいて、「間違っただけは伝えられない。こちらもしっかりとした対応が出来るように、更なる勉強が必要だ」と思わせられました。また、数年後にはもっと上のレベルを狙えそうな方もいたので、現役審判員として良い刺激になりました。

県内でも高いレベルの試合を提供する為に、私達審判インストラクターが審判員の育成に力を入れ

ていかなければなりません。今後も継続していき、この講習会に参加した若い審判員達がさらに上のレベルを目指してくれれば嬉しく思います。

8. 謝辞

今回も五戸サッカー協会のご厚意で、「第46回五戸高校後援会旗争奪中学生新人インドアサッカー大会」をユース審判サッカー3級昇級講習会として活用することができました。会場校として運営に携わった五戸中学校をはじめ、参加いただいた中学校関係者の皆様へ厚くお礼申し上げます。

本事業は、スタートした2014年から7年目となります。今回は高校生と同じ内容で、中学生が3名も受験しました。また、チーム関係者としての想い、育成と考えてどこまで許容できるかなど、「技術と審判の協調」が試されるシーンもいくつかありました。将来の日本サッカーを担う若者が集うこの大会が、今後とも末永く続くことを祈念いたします。本当にありがとうございました。

青森県サッカー協会審判委員会指導育成部ユース部長 石鉢 学

